

平成 21 年度 日本老年看護学会 総会 議事録

日 時：平成 21 年 9 月 27 日（日） 13 時～14 時

場 所：札幌コンベンションセンター 1 階大ホール AB（学術集会第 1 会場）

報告者：理事長 中島紀恵子

理 事 太田喜久子 石垣 和子 小西美智子 堀内 ふき 水谷 信子 水野 敏子

会計監事 北川 公子 正木 治恵

大塚理事より、総会時点の会員数 1,077 名のうち委任状 444 通、出席者 58 名、会則 19 条に則り総会として成立している旨が報告され、開催が宣言された。

1. 議長選出

議長選出にあたっては、慣例により井出訓第 14 回学術集会長が選出された。

2. 報告事項

1) 理事会、評議員会報告（総一資料 1）

中島理事長より、挨拶および、総一資料 1 に基づき、今年度は理事会 4 回と評議員会 1 回を実施したこと、また平成 21 年度の主な事業として以下の 6 項目について報告された。

(1) 日本老年学会への加入について

平成 21 年 6 月に行われた日本老年学会総会において、本学会の加入が承認された。日本老年学会は、本学会を加え 7 学会が加盟しており、また合同学会が 2 年に 1 度開催され、本学会は 2011 年度から参画する。これまで加盟について検討してきたが、今年度会員が 1,000 名を超えたことで加盟に踏み切った（会費は 1 人 250 円、年額約 25 万円）。

(2) 機関誌の電子化について

本年度より機関誌の電子化が決定され、発行 1 年後から一般閲覧が有料にて、可能となった。

(3) 役員選挙

規程により、評議員選挙および理事・監事の選挙が行われ、平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日までを任期とする新役員を選出した。

(4) 老年看護の政策に結びつく研究活動

老年看護の制度・政策等に関する事業として、厚生労働省の老人保健健康推進等事業の補助金を獲得し、本第 14 回学術集会において 5 題の研究成果を報告した。

(5) 日本看護系学会協議会および「看保連」等と看護裁量権拡大に向けた共同事業に参画した。

(6) 第 28 回日本医学会総会（2011 年 4 月開催）との共同

プログラム作り、シンポジウムの内容検討などを進めており、中島理事長が認知症ケアのシンポジスト、太田副理事長が権利擁護のシンポジストとして参画する。

2) 総務報告（総一資料 1）

太田副理事長より、会員数の動向については、平成 21 年度入会者 104 名、退会者 42 名であり、総会員数 1,080 名である旨、また以下の活動を行った旨の報告がなされた。

入退会に関する会員管理、機関誌電子化に伴う準備および手続き、日本看護系学会協議会との連携、

日本老年学会入会の手続き等の活動が報告された。

3) 委員会報告（総一資料 2）

(1) 編集委員会

水谷編集委員長より、第 13 巻 1 号、第 13 巻 2 号を発行したこと、また第 14 巻第 1 号については、現在査読進行中である旨、さらに投稿規程については、昨年より引き続き、検討中である旨が報告された。なお、年 2 回の発行スケジュールの関係から、投稿締切りは、第 1 号は 4 月末、第 2 号は 10 月末としているが、投稿は随時受け付けており、積極的な投稿の要請があった。

(2) 研究・教育活動推進委員会

小西委員長より、平成 21 年 9 月 25 日、北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて「老年専門看護の発展を目指して；アメリカの専門看護実践から学ぶ」を開催し、84 名の参加があったこと、また基調講演として、アメリカ在住のナースプラクティショナーである緒方さやか氏に「アメリカにおける専門看護実践の役割と機能」をテーマに講演いただき、その後参加者が急性期医療、慢性期医療等の分野に分かれ、老年看護の専門性の発展に向けて討議を行った旨が報告された。

(3) 国際交流委員会

正木委員長より、今年度の活動として下記の 3 項目について報告がなされ、今後もそれらの活動を継続していく旨が報告された。

① 学会ホームページでの国際学会や国際交流に関する情報提供

国際学術集会の開催日程、開催会場、演題締切等についての随時案内。今年 7 月にフランスのパリで開催された International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG：国際老年学会) による第 19 回国際会議に参加された会員の方々の体験記の掲載等。

② 国際学会との連携・ネットワークづくり

本学会の日本老年学会への入会により、同時に国際老年学会への入会となった。

③ 実践・教育面での国際交流の促進、

第 14 回学術集会において、交流集会「日本老年看護学会から世界への発信を考える；国際活動事例を通して」を企画。

(4) 老年看護政策検討委員会

石垣委員長より、下記の 5 項目についての活動報告がなされた。

① 老年看護政策に関連した調査研究事業の実施

平成 19、20 年度に引き続き、厚生労働省の平成 21 年度老人保健事業推進費等補助金の公募課題に応募して採択され、以下の研究事業を開始している。

a. 「特別養護老人ホーム利用者の医療ニーズへの対応のあり方に関する研究事業」

(継続課題)

b. 「介護施設の看護職におけるケア管理に関する調査研究事業」 (継続課題)

c. 「海外の高齢者施設における看護職等のケア管理・提供に関する調査研究事業」

(新規課題)

② 厚生労働省調査研究事業報告会の実施

平成 21 年 8 月 21 日 (金) に、平成 19～20 年度に行った厚生労働省調査研究事業の経過・成果の報告会を東京・神田エッサムホールにて行った。非会員約 40 名を含め、約 130 名の参加が得られた。内容は以下のとおりであった。

a. 厚生労働省老健局高齢者支援課當山紀子氏による特別講演

「最近の特別養護老人ホームにおけるケアの在り方と今後の方向性について」

b. ケアプロトコール作成班からの報告

千葉由美氏（胃ろうからの離脱）、佐藤和佳子氏（膀胱留置カテーテルからの離脱）、
酒井郁子氏（生活リズムの再確立）、伴真由美氏（排便コントロールの再確立）

c. 水野敏子氏による「特養入所者の医療ニーズへのケア実践と課題」の報告

d. 太田喜久子氏による「特養におけるケア管理の実情」の報告

③ 学術集会における厚生労働省調査研究事業の成果発表

平成 20 年 11 月 8 日（土）金沢にてケアプロトコール班の報告会およびポスター展示、平成
21 年 9 月 26 日（土）札幌にてケアプロトコール班、特養医療ニーズ班、特養ケア管理班の
ポスター展示を行った。

④ 厚生労働省モデル事業への講師の派遣

平成 21 年度に厚生労働省が行う特養における看護師と介護職との連携に関するモデル事業
への講師派遣を依頼され、摂食嚥下に関しては千葉由美氏（千葉県立保健医療大学）、吸引に
関しては亀井智子氏（聖路加看護大学）を派遣した。

⑤ その他

診療報酬に関する看保連での活動のほか、高齢者の保健医療福祉施策に関連する要望書の作
成や政策提言の準備を行う。

(5) 研究論文表彰選考委員会

堀内委員長より、第 3 回表彰論文について、第 12～13 巻を選考対象とし、選考委員会ならびに理
事会による審議を経て、下記の 1 論文（奨励賞 1 本）が決定した旨が報告された。

・奨励賞：杉本知子

「長期ケア施設に入所する高齢者の転倒の予防を目的とした施設スタッフへの教育的介入
の効果；スタッフの転倒予防に対する認識とケア実践の変化に焦点を当てて」

（13 巻 2 号，2009 より）

4) 選挙管理委員会報告（総一資料 3）

小長谷選挙管理委員長より、総一資料 3 に基づき、評議員選挙に関して、地区別の会員数、選挙人
数、被選挙人数、投票件数、投票率等、ならびに選出評議員の報告がなされた。

5) 新体制について（総一資料 4）

中島理事長より、新評議員の互選による理事・監事選挙を行い、新理事・監事が選出されたこと、
またそのうち 4 名は新たに理事として推薦・選出された旨が報告された。なお、新理事長に太田喜
久子氏が選出された旨が報告された。

以上、1)～5) の報告事項に対し、拍手によって、これを了承した。

3. 協議事項

1) 平成 20 年度決算報告（総一資料 5）

水野会計担当理事より、総一資料 5 を基に以下のとおり説明があった。

- ① 収入の部については、会費収入：10,190,000 円（正会員 998 名中 946 名）、学会誌等販売費：
25,417 円、利子・雑収入：1,589,862 円（第 13 回学術集会からの寄付金・ワークショップ参加
費等を含む）、前年度繰越金：3,841,465 円を含め、合計 16,546,744 円の収入があった。

- ② 支出の部については、機関誌購入費：4,198,950 円，編集委員会費：900,368 円，研究論文表彰選考委員会：125,110 円，老年看護政策検討委員会：65,660 円，学会事務委託費：2,269,520 円，本部事務費：436,684 円等，合計 10,378,384 円を支出し，次年度への繰越金を 6,168,360 円とした。
- ③ 学会積立金特別会計については，受取利子：5,479 円，前年度繰越金：5,004,200 円を含め，次年度への繰越金を 5,009,679 円とした。

2) 平成 20 年度決算監査報告

北川会計監事より，平成 21 年 5 月 9 日，正木会計監事とともに，事務センターにて，通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果，平成 20 年度の決算書が適正かつ正式であった旨の報告がなされた。平成 20 年度決算報告及び監査報告をうけ，挙手によってこれを承認した。

3) 平成 22 年度事業計画（案）（総一資料 6）

中島理事長より，資料 6 を基に平成 22 年度事業計画（案）として以下の 10 項目が挙げられ，挙手によって，これを了承した。

- ① 第 15 回学術集会の開催
- ② 学会誌第 15 巻 1 号，2 号の発行と電子化による公開
- ③ 国内外の研究・教育ならびに生涯学習事業の推進
- ④ 老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑤ 看護系諸学会との共同事業の推進
- ⑥ ホームページの充実
- ⑦ 表彰論文の選考
- ⑧ 新体制の強化
- ⑨ 日本老年学会活動の推進
- ⑩ その他本学会の目的とする事業

4) 平成 22 年度予算（案）（総一資料 7）

水野会計担当理事より，総一資料 7 を基に以下のとおり説明があり，挙手によって，これを了承した。

- ① 収入の部については，会費収入：10,695,000 円，前年度繰越金：4,410,000 円を含め，合計 16,145,000 円の収入とした。
- ② 支出の部については，学会誌購入費：4,876,000 円，学術集会貸付金 1,000,000 円，学術集会・老年合同学会助成金：1,300,000 円，研究論文表彰選考委員会：160,000 円，基本事務委託費：1,280,000 円，本部事務費：946,000 円，予備費：2,873,000 円を含め，合計 16,145,000 円を支出するものとした。

5. 退任理事への謝意およびご挨拶

中島理事長，奥野理事，水谷理事の退任に対し，謝辞および花束が贈呈された。

6. 15 回学術集会，第 16 回学術集会／第 27 回日本老年学会学術集会について

1) 第 15 回学術集会

小泉第 15 回学術集会长より，下記のとおり開催，テーマについては，現在検討中である旨が報告された。

開催日：2010年11月6日（土）～7日（日）

会 場：ベイシア文化ホール（群馬県民会館）

テーマ：未 定

演題登録期間：2010年5月1日～6月7日（予定）

2) 第16回学術集会／第27回日本老年学会学術集会について

中島第16回学術集会长より、下記日程にて開催する旨、また、会場の都合上ポスターセッションのみとなる可能性があることが報告された。なお、最終的な会場およびテーマについては、現在検討中である旨が併せて報告された。

開催日：2011年6月15日（水）～17日（金）

会 場：西新宿エリア（京王プラザホテル、NSビル他）予定

演題登録締切：2011年3月中旬頃の予定

7. 表 彰

堀内研究論文表彰選考委員長より、第3回研究論文表彰受賞者の発表が行われ、下記受賞者が欠席であったため、代理者に賞状ならびに楯が贈呈された。

奨励賞：杉本知子

「長期ケア施設に入所する高齢者の転倒の予防を目的とした施設スタッフへの教育的介入の効果；スタッフの転倒予防に対する認識とケア実践の変化に焦点を当てて」

8. 閉会の辞

大塚理事より、閉会の辞が述べられ、閉会となった。